

<実践報告>山形県立酒田東高等学校

外部講師講演会				
日時／会場	令和7年8月25日(月)5・6校時／13:45～15:30			
対象者及び人数	学年・クラス等	1年次	人数	179名
講師	氏名	和泉 典子 氏	職種	医師(緩和ケア医)
指導内容 ※○をつける		ア がんという病気		カ がんの治療法
		イ 我が国におけるがんの状況	○	キ がんの治療法における緩和ケア
		ウ がんの経過と様々ながんの種類	○	ク がん患者の「生活の質」
		エ がんの予防		ケ がん患者への理解と共生
		オ がんの発見とがん検診		
講演の概要				
がんの治療と緩和ケアについて、実例を挙げながら講演いただいた。また、グループワークを通じて、自分自身ががんになった時に治療に際して大切にしたいことや、身近な人ががんになった時にあげたい支援について考えを深めた。				
講師の方へお願いしたこと				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際のがん治療に携わる立場から現場の生の声を取り上げてお話しいただけるよう依頼した。</li> <li>・講師からの一方的な話だけでなく、生徒同士のグループワークの時間も確保して生徒が能動的にがんについて考える機会を作っていただいた。</li> <li>・講演の直前にがんにより他界した親族がいる生徒がいた旨を講師に伝えた。</li> <li>・生徒に取った事前アンケートの配慮事項の有無について共有し、講演時の留意点を確認した。</li> </ul>				
児童・生徒の実態及び必要な配慮等				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演前に家族、親族の他界や療養経験等の情報収集と配慮事項の有無を確認した。</li> <li>・保護者にも講演の概要について通知し、同様の事項について確認した。</li> </ul>				

<実践報告> 山形県立酒田東高等学校

研究授業				
日時／会場	令和7年9月2日(火)3校時／10:45～11:40			
対象者及び人数	学年・クラス等	1年1組	人数	33名
授業担当者	保健体育科教員			
指導内容 ※○をつける		ア がんという病気	<input type="radio"/>	カ がんの治療法
		イ 我が国におけるがんの状況	<input type="radio"/>	キ がんの治療法における緩和ケア
		ウ がんの経過と様々ながんの種類	<input type="radio"/>	ク がん患者の「生活の質」
		エ がんの予防		ケ がん患者への理解と共生
		オ がんの発見とがん検診		
授業の概要 (主な学習内容)	導入10分	前時までの振り返り 講演の内容について触れる		
	展開35分	<p>模擬事例（多年代、4種）を用いて、実際にがん患者になった時に治療方法を選択する上で重視することについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬事例の年代にがんにかかった時に治療方法を選択する上で重視することについてグループワークをおこなう</li> <li>・緩和ケア（生活の質、交友関係等）の視点も踏まえて事例を検討する</li> <li>・他の事例を検討したグループの内容を共有する</li> </ul>		
	まとめ5分	本時の振り返り 単元全体（生活習慣病などの予防と回復）のまとめ		

## <実践報告>山形県立酒田東高等学校

事業の成果	今後に向けて
<p>がん治療の実際について、緩和ケア医による講演を拝聴することで治療そのものだけでなく、生活の質も維持・向上させることの重要性について考えを深めることができた。</p> <p>研究授業では、実際にがん患者になった際に「自分ならこうする」「こういう視点で治療をすべき」等の意見が出され、がんを自分事として捉える姿が見られるようになつた。多年代の事例を用いてグループワークをおこなつたが、それぞれの年代で起こりうるライフィベント等も考慮した意見が出され、自他の健康の維持について考える姿勢が見られた。</p>	<p>研究授業の内容について、学習内容をより精査して取り組ませるべきであった。生徒に身に付けさせたいことや考え方させたいことを絞ることで、本時の目標に即した学習活動が展開されたのではないかと感じる。</p> <p>本単元全体の学習は、生徒の生涯にわたって重要なことであるが、一人ひとりが今後の高校生活や卒業後の生活で実践していくかが懸念される。次単元以降でも、自他の健康を保持増進する資質について指導にあたりたい。</p>

事業の様子
<p>講演会</p>  <p>授業実践</p>  